

Contents:

1. 周産期ネットワークデータベース会議・第2回INTACT研究班会議の報告
2. SPRAT(シェフィールド同僚評価表)日本語訳妥当性の検証のための多面(自己・他者)評価調査の実施
3. 介入の進捗状況
4. 症例登録状況
5. 施設紹介

1. 第6回Database Quality Improvement Conference・第2回INTACT研究班会議の報告

平成24年9月8日に第6回Database Quality Improvement Conference・第2回INTACT研究班会議が東京・大手町にて行われました。今回は、倉敷中央病院の吉崎加奈子先生と県立福井病院の岩井和之先生のお二人に報告していただきました。

図. 第6回Database Quality Improvement Conference・第2回INTACT研究班会議



★ 倉敷中央病院 施設担当の吉崎加奈子と申します。9月8日にINTACT研究班会議、第6回Database Quality Improvement Conferenceが開かれました。今回の会議では、INTACTに参加している40施設以外の施設からも参加されており、活発なディスカッションが行われました。

楠田聡先生から、周産期ネットワークデータベースの解析報告がありました。このデータベースに登録している施設は、2003年では約40施設ほどでしたが、2010年にはその4倍以上に増加しております。INTACT研究に関しては本部から進捗状況の報告がありました。介入群でのワークショップの様子、改善行動計画での工夫や苦労といったことも報告されました。そして、これから重要な課題であるフォローアップについては、フォローアップ率の向上のための対策について説明がありました。

当院は、対照群であるため、時に、INTACT研究で何かやっているという実感がもてないことがあります。しかし、介入群が「早産児の障害なき生存の増加」という目標に向かって、苦労しながら取り組まれていることを対照群も認識し、自施設のやり方であっても同じ目標に向かって診療に取り組むことが重要と思いました。今後、ニュースレターやホームページを通じて、スタッフのみんなにINTACT研究の活動を紹介し意識を高めていきたいと思います。



★ 福井県立病院小児科の岩井和之です。前任者から施設代表者を引き継ぎ、カンファレンスに参加させていただくようになって5年目となりました。この間に会議で紹介された話題やテーマは毎回興味深いものばかりで、大変よい勉強になりました。そのようなテーマの中でも初めて参加した時に議論されていた「施設間格差」には、鮮烈な印象と強い関心を持ちました。「施設間格差」について議論されている間、自施設で提供している新生児医療は全国の標準的レベルにあるのだろうか、との凄く強い不安に駆られたことを昨日のことに思い出します。このような不安もあって、「施設間格差」を解消するための仕組みづくりが、INTACT研究へと発展した経緯には大変感銘を覚えています。当該施設の医療に存在する潜在的な問題点を改善するための方法論が、INTACT研究により構築されることを期待しています。



私どもの母子医療センターは、人口減少と少子化の進行が著しい福井県の中核病院にあります。そのような地域の施設にあって、“医療の質の向上”よりも“医療の質の維持”に、そして、“医療を支えるひとの獲得”よりも“医療を支えるひとの維持”に大変苦心しているのが現状です。このような厳しい現状に向き合いながら、INTACT研究への参加が、“医療の質の維持”ではなく、“医療の質の向上”につながって行くように、今後も努力していきたいと思っています。

周産期母子医療センターネットワークデータベース解析報告の一部が公開されています。

<http://plaza.umin.ac.jp/nrndata/>

厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)により収集および解析された2003年以降に全国の総合周産期母子医療センターおよび主要新生児医療施設に入院して治療を受けた出生体重1500g以下の新生児のデータになります。データの詳細は研究班報告書をご覧ください。

2. SPRAT(シェフィールド同僚評価表)日本語訳妥当性の検証のための多面(自己・他者)評価調査の実施

「INTACT/周産期医療の質と安全の向上のための研究」の一環として、医師の総合的診療スキルを評価するSPRAT同僚評価表を導入しています。しかし、SPRATの日本語訳は妥当性評価がされていないため、この度、SPRATを開発されたジュリアン・アーチャー博士(図)を招聘し、日英連携で日本語訳妥当性の評価を行うことになりました。7月には公募により、小児科医、新生児科医、研修医、医学教育専門家、小児看護専門看護師、患者家族代表者の計20名にご参加頂き、パネル会議を開催しました(図)



図. ジュリアン・アーチャー先生



図. パネル会議の様子

パネル会議では、評価表の日本語の表現が適切であるかをはじめ、評価項目の内容について、小児科医の到達目標や周産期専門医制度の行動目標等を元に比較検討を行いました。会議内で検討できなかった点に関しては、会議後もメールベースで意見交換を行い、修正・変更を加え、日本語訳SPRAT評価表が完成しました。

<お知らせ(1)>

2012年11月3日に第1回INTACT研究 発達評価についての心理士向け研修会を東京で予定しております。すでに、施設担当者の先生方にはメールにてご案内差し上げております。

(1) 日本語訳妥当性の検証のための調査

この度完成した日本語訳SPRATの信頼性・妥当性を検証するため、本来のSPRATの評価方法である多面（自己・他者）評価を実施（INTACTでは、新生児科の科長、又は病棟の医師を評価できる立場の医師等にスタッフ全員の評価をして頂きました。）

(2) 評価対象者

医師（研修医を含む）

(3) ご本人以外の評価者（対象者の全般的な診療に関して評価できる、病棟内外の同僚）

～職種別の人数～ ※施設によりスタッフ数が異なるので、以下は参考として設定

医師は、上司、同期、部下を各2名以上、

看護師を含むコメディカルを2名以上とし、全部で10名以上になるようにする。

(4) 調査協力施設

倉敷中央病院、日本大学医学部附属板橋病院、国立成育医療研究センター、東京女子医科大学病院の4施設。ご協力、心よりお礼申し上げます。

(5) スケジュール

	平成24年						平成25年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
パネル会議	→								
意見調整 最終版の確定		→							
調査の準備			→						
調査の実施 （配布/回収）				→					
データ解析						→			
結果報告								→	

調査の進捗は、ニュースレターやメーリングリストなどでご報告させていただきます。

妥当性の評価により、今後、新生児科領域のみでなく、広く日本語訳SPRATが使用されることを目指しています。

佐々木八十子
周産期研究事業支援室

**3. 介入の進捗状況**

2012年2-6月まで介入施設群（19施設）では、順次ワークショップを開催し、3-8月にかけて、当該施設の課題に合ったオリジナルの改善行動計画を策定・導入していております。施設によって、計画の進捗具合は異なり、そろそろモチベーションが低下してくる時期になってまいりました。10-12月にはペア施設や支援班がワークショップ後・施設フォロー訪問をする予定となっております（表）。この訪問は、ここまでの進捗を確認し、今後どうすればINTACTの活動、改善行動計画をさらに進めていけるか、一緒に考える機会として企画・実施するものになります。このような取り組みは周産期の世界でも初めての試みですので、試行錯誤を繰り返しながら、最善の方法を見つけて、今後に繋げていきたいと思っております。

<お知らせ(2)>

皆さまからお寄せいただいたお問い合わせを中心に、現在、データベース登録マニュアルの改訂中です。10-11月に配布予定ですのでお待ちください。

表. 施設訪問日程(10月8日現在決定している予定)

月	日程
10月	22:北野病院、29:名古屋第一赤十字病院
11月	7:浜松医科大学附属医学部附属病院、13:大阪府立母子保健総合医療センター、14:名古屋第二赤十字病院、18:川口市立医療センター、19:久留米大学病院、21:県立広島病院
12月	3:国立成育医療研究センター、4:愛染橋病院、6:埼玉医科大学総合医療センター、7:石川県立中央病院、12:秋田赤十字病院、14:信州大学医学部附属病院、17:高槻病院、18:鳥取大学医学部附属病院

4. 症例登録状況

2012年10月2日現在、559名を登録していただいております(右図)。

皆さま、お忙しい中、ご協力ありがとうございます。引き続き、症例登録、宜しくお願い申し上げます。

5. 施設紹介(鳥取大学医学部附属病院)

今回は12番目にワークショップを開催した鳥取大学医学部附属病院になります。

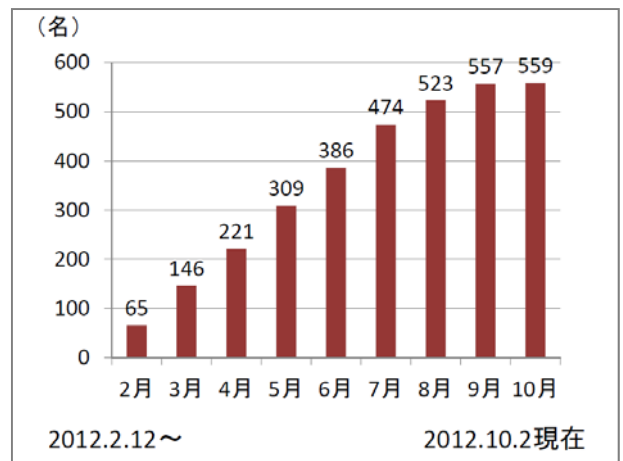


図. 出生月別INTACT対象登録患者数の推移

1.施設名

鳥取大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター新生児部門

2.規模

NICU9床 GCU9床
(平成24年10月 NICU12床 GCU15床へ増床予定)

3.スタッフ

医師8名(新生児グループ3名 循環器2名 肝臓消化器2名 その他1名) 看護師37名 保育士1名 臨床心理士1名 事務員2名 MSW 1名
PT、薬剤師出入りあり

4.医師勤務体制

通常勤務+当直5-6回/月+On Call 6-7回/月(当直明けも勤務します)

5.看護体制

2交替・3交替混合



図. 2012年3月ワークショップ

6. 施設・地域のアピール

当施設は鳥取県の西の端、お隣の島根県すぐ近くに位置します。鳥取県は、東部・中部・西部地区と3つの地域でわかれており、それぞれに地域周産期センターが設置されています。当施設は、県内唯一の総合周産期センターとして、全県内・山陰地区の母胎・新生児を受け入れています。大学病院であるため、総合的な診療が可能であり、早産児・外科疾患・循環器疾患・重症仮死など入院受け入れは多岐に渡ります。

7. 研究への参加理由

過去の診療を、客観的なデータをもとに振り返り、今後の施設の在り方を考えたいとの思いから参加しました。INTACTがスタッフの意識改革のチャンスでもあってと思っています。また、全国の周産期センターとの交流の中で多くのことを学び、連携のとれる関係を構築したいと考えています。

8. 施設担当者から一言



「大学NICUでの持続可能な新生児医療」を念頭に置きつつ、施設のレベルアップを図ろうと思っています。(三浦真澄)

9. 看護担当者から一言



医師・看護師がお互いに理解し、それぞれの問題点や改善策を共有して一緒にINTACTに取り組む中で、組織力を高めたいと思います。(村田千恵)

10. 施設長(部長)から一言



本施設は、山陰地域でも都会に負けない新生児医療を行いたいという熱意を持って頑張ってきました。この目的のために多くの医師を全国の先進的な新生児医療を行っている施設に絶えず派遣してきました。この度、INTACTに参加することで、当施設の診療が更に向上し、病的新生児の予後が格段に改善すると確信しております。出来るだけ多くのことを学びたいと思っております。(周産期・小児医学分野教授 神崎晋)



図. 和気藹々で医師休憩中



図. 鳥取大学医学部附属病院のなかま

三ツ橋偉子、西田俊彦、佐々木八十子、松田直子
東京女子医科大学母子総合医療センター
周産期研究事業支援室
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
WEB : <http://www.nicu-intact.org>
TEL/FAX : 03-5269-7444(直通)
official MAIL : nicu-intact@boshi.twmu.ac.jp